

「点検・評価に関する有識者」からの意見

◎大濱勝彦氏より

◎棚原正榮氏より

◎亀島靖氏より

4. 「点検・評価に関する有識者」からの意見

◎大濱勝彦氏より（教育委員の活動及び教育部に対して）

【教育委員の活動に関する総合所見】

点検評価書から、定例会議や委員の資質向上を図る研修会参加はもとより、学校訪問・学校行事への参加、各種行事・大会等への参加とハードで精力的に活動している事が伺え、その努力を高く評価する。

浦添市教育委員会推進事業に関する点検・評価書から、Ⅱ未来を拓くひとづくり、学校教育に関する活動実績は十分伺えるが、推進事業トップに掲げるⅠ心豊かな生涯学習社会づくりに関して、社会教育・生涯学習等に関する行政の果たす役割としての活動実績等が見えない。浦添市が目指す「まちづくり生涯学習」実現に向け、てだこ市民大学の開校と相まって、今後の教育行政の果たす役割・機能発揮に寄せる期待は大である。

本市の教育目標に掲げる、まちづくり生涯学習社会の形成を図るため、先ずは、教育委員と社会教育委員会や生涯学習推進協議会、自治会長会、自治公民館長連絡協議会、社会教育団体関係者との情報交換・懇談会、研修会等の開催を提案する。

【総務課所管事業に関する総合所見】 No.1～No.7

今年度は、幼稚園3園の空調設備の設置及び老朽化に伴う幼稚園1園、小学校校舎1校及び屋内運動場4校の改築とプール改築事業推進に際し、当該校と事前調整を十分図りながら推進する等、当該校の長年の懸案事項であつただけに、事業が完了した事は大きな成果として、担当課及び関係者の尽力を高く評価したい。

幼児・児童・生徒の体位・体力・学力の向上に大きく影響を及ぼす学習環境の条件整備は、教育行政が果す重要な任務である。社会が著しく変化する状況下、財政的に厳しい状況にあっても、教育環境の条件整備は、遅滞無く早期、適切に対応を講ずる事が、これからも強く求められる。

【放課後子ども教室推進事業（生涯学習振興課）】

本事業の趣旨や実施教室数・回数、参加児童数や地域の大人のボランティアの協力者数、多種多様な実体験プログラム展開の努力とその実績を、高く評価する。

特に、学習支援ボランティアに、高校生や大学生に充てる等年齢的に近いお兄さんお姉さんとの良好な異年齢関係を作りだすことを検討願いたい。

近年の青少年をめぐる様々な問題発生の背景として、地域の地縁関係の希薄化や個人主義の浸透等により「地域の教育力の低下」をきたしている。その回復・再生する事業として有効であり、今後とも継続・拡充を期待する。

【まなびフェスタ浦添事業（生涯学習振興課）】

生涯学習社会の構築を図る上から、市民に多様な学習機会や場の提供はもとより、学習情報の提供・相談を取り入れる等「まなびフェスタ事業」は有意義であり、浦添市が目指す「まちづくり生涯学習」の実現を図る一大イベントとして評価し、その継続・拡充を期待する。

広く市民の最大動員を図るためのフェスタ関係機関及び市民団体等と事前調整を図るなど「実行委員会」の機能強化や事業運営面にてだこ市民大学生のまちづくり実践的体験（地域参加）活動の機会・場として位置づける等創意工夫を検討願いたい。

【浦添市・中国泉州市小中学生交流事業（生涯学習振興課）】

本市の小中学生を中国泉州市に派遣し、訪問国との国際交流活動を通して国際感覚を身に付ける等、青少年に夢と希望を抱かせ、次代を担う人材育成を図る上から、本市の誇るべき特色ある有効な事業である。今後とも重要事業として継続し、派遣人員の増員が図れるよう期待する。

派遣生徒がある程度の中国語や訪問国の歴史・文化等を習得して参加出来るよう、中央公民館分館事業として、中学生及び小学生高学年を対象とした「中国文化にふれる講座」等を計画的・継続的に開設する等、課題解決を図るよう提案する。

【浦添市少年の船事業（生涯学習振興課）】

本市の児童生徒を県外に派遣し、訪問地の少年との交流や自然体験活動等を通じた本事業は、青少年に夢と希望を抱かせ、次代を担う人材育成に大きく教育効果は大きい。青少年の健全育成を図る重要な事業として、継続を期待する。

【てだこ学園大学院委託事業（生涯学習振興課）】

本学園の学習内容は、高齢期に遭遇する様々な生活課題の解決を図る為

のバラエティーに富んだ学習プログラムが開設されている。その学習成果が生き甲斐づくり、心身の健康づくりはもとより、高齢期の主体的・自立的な生き方支援となるだけでなく、地域社会への参加貢献活動にも寄与してきていることを高く評価し、継続を期待する。

本学園運営組織の課題として、本年度開学した「てだこ市民大学」と将来的には統合する方向での検討を提案する。

【学校支援地域本部事業（生涯学習振興課）】

本事業の目的である「学校・家庭・・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える」学校支援モデル事業実施2カ年目を迎えた神森・浦西中校区は、昨年度に増して地域ボランティアの理解と協力体制が図られる等その活動成果が現れている事を高く評価し称えたい。

今後、学校と地域の連携協力による学校支援の取り組みが幅広い関係者の理解と協力者のもとに市民総ぐるみ運動として展開されることを期待する。

てだこ市民大学、特に学校・地域支援コーディネーター学部の地域参加活動に取り入れることも必要と思われる。

【てだこ市民大学事業（生涯学習振興課）】

浦添市民の生涯学習に関する学習行動は、積極的・意欲的で活発に活動している。また、学習ニーズは、多様化・高度化の方向にある。

本市が目指している「まちづくり生涯学習」の実現に期待される成果は、豊かな心を持つ市民の育成である。学習歴を積み重ねた人間力によって、まちづくり（地域力アップ）が図られることから、まちづくりをコーディネートするキーパーソンの育成は有効な事業であり、「てだこ市民大学」の開校と相まって、課題として挙げられている、卒業後の受け入れ環境の条件整備は行政と各種市民団体等との連携協力（市民協働）を図りながら取組む重要課題の一つである。

又、事務局体制の確立及び講座内容の充実を図る上から、NPO等専門性を有する民間団体を組織し、一部事業依託から段階的に導入する方法等の検討事項として提案したい。

【社会体育課所管事業に関する総合所見】 No.15～19

浦添市民がそれぞれのライフステージにおいて「いつでも、どこでも、だれでも」をキーワードに、元気はつらつと多様な生涯スポーツに取組んでいる姿が点検評価書や担当課のレクチャー及び関連資料から読み

取れる。市民の健康づくり志向の高さと意欲的な運動の生活化は、生涯スポーツの振興と生活習慣病の予防に大きく、有効な事業として評価できる。

今後とも、市民の生涯スポーツ及びレクリエーション等が楽しく安全に活動できる場（地域の小規模運動公園等）の確保、遊具や健康づくり器具等の設置やスポーツ等活動機会の提供と指導者の育成・確保及びてだこ市民大学卒業生の受け皿づくり等について、更に、関係部局等との連携強化を図りながら市民ニーズに応えて欲しい。

【公民館事業運営（中央公民館及び分館）】

公民館運営の基本方針及び重点施策・事業展開の実績から、特に、中央公民館がコーディネート機能を発揮し、本市の目指す「まちづくり生涯学習」の実現に向けた地道な取組みを、下記の点からその実績を高く評価したい。

- ・自治公民館講座が32自治会で地域ニーズに応えるバラエティーに富んだ56講座が実施され、地域活性化に弾みをつけている。
 - ・公民館利用者団体・サークルが日頃の活動成果をボランティア活動を通して、広く市民に公開・紹介している実績が伺え好ましい方向にある。
- 今後、自治公民館講座開設が全自治会で実施できるよう、公民館の支援体制強化を期待する。

以上

◎棚原正榮氏より（教育委員の活動及び指導部に対して）

【教育委員の活動】

教育委員会の会議、諸研修会への参加、学校訪問、学校行事への参加、各種行事・大会等への参加など、各委員が忙しく頑張っていることが伺える。特に、学校訪問や儀式、諸行事への参加は教職員や児童生徒、P T A、地域などへの大きな励ましになっていると思う。テーマを持っての学校訪問も教育委員会の工夫した取り組みである。

「2. その他の会議、研修会への参加」の成果として、分科会とテーマを更に二つに分けることを提案したとあり、工夫・改善点をあげた点で教育委員としての職務上の自覚、前向きさと積極性を感じる。

しかし、教育委員の活動についての点検及び評価、その考え方や方法については大きな懸念もある。五つの項目についてそれぞれの成果と課題の欄があるが、それぞれの表記の仕方が不十分と思われるからである。

各活動について、工夫や努力点などはあるはずであり、そのことによる成果と課題も明らかになるはずである。成果（表現）も不十分である上に、課題も四つの事業等で明らかにしてはいるものの、この内容でいいのかという疑問がある。課題が明確にされないということは次年度に向けての工夫・改善などによる進歩がないことを意味する。

「1. 教育委員の会議」は、特に重要な意味を持つと思うが、委員一人一人が会議に向かう心得や姿勢等を持っていないために課題がないのだろうかと思わせる。

議会への報告と市民へ公表するものとしては、教育委員の職責と役割の重大さから考えて、全体的に不十分に思える。

「4. 学校行事への参加」の課題として「各委員から・・・」という表記があり、内容はともかくとして、この考え方を1～5の全ての事業等に当てはめてはどうだろうか。

一人一人の委員も自己評価が必要であるはずであり、各項目を分担して点検・評価書を作成してみてはどうだろうか。各委員がそれぞれの担当部分について、活動の工夫・努力点などを明確にしつつ、成果と課題を明記することによって委員としての自覚を深め、役割と責任を果たすことにつながると思う。

地教行法第27条ができた意図や背景等を踏まえ、第11条及び第26条2項の五を念頭に置いて、点検及び評価の仕方においても教育委員は範を示す立場にあると思う。

【県外派遣事業（学務課）】

運動競技や文化活動で県代表となり、県外に派遣されることは小学生や中学生にとって大きな喜びであり、それぞれの活動へのさらなる意欲を高

め、人間性や社会性などの向上などにもつながるものである。この事業はその意義の大きさから、本市においては長年にわたって続けられてきた。県外派遣される児童生徒が年々増加していることは事業の大きな成果である。

また、ハンドボール王国宣言をしたこと、ハンドボールのみならず他の競技や活動への波及効果を念頭に置いたものだと考える。厳しい状況ではあるが、財源確保に努力して、多くの児童生徒に夢と希望を与えて欲しい。

【幼稚園就園奨励事業（学務課）】

幼稚園（就学前）教育の普及、奨励のために、認可幼稚園に補助金交付、公立幼稚園に減免措置を講じたことは本市教育行政の課題解決であり、保護者の負担軽減を図るために満3歳児から支給対象としていることは、子育て支援策としての効果も大きい。

本市の年齢別人口構成を見ても、幼稚園（就学前）教育に力を入れることは引き続き重要な課題である。更なる充実・発展のために、課題としている新たな計画づくりを急いで欲しい。

【育英会補助事業（学務課）】

貸与生累計426人となっていて、本事業が人材育成に大きく寄与していることが分かる。全国的な就職難が続く中、返済できずに苦慮している貸与生が多くいることも容易に推測できる。当然ながら、財源の捻出に苦労することになる。

この事業の果たしてきた役割の大きさから、組織や運営のあり方などの検討を通して今後とも事業が継続されることを期待する。

【就学援助事業（学務課）】

課題にあるように、単親家庭の増加、保護者の経済状況の悪化等から援助費が毎年増加していることはよく理解できる。そのような状況下でも、本市は平成18年度から単独事業として継続していることは大きく評価される。

子育て支援は、本市行政の柱の一つでもあり、今後とも事業が継続されることを期待する。

【小中学校管理運営事業（学務課）】

本市教育行政の誇りでもあり、特色ある事業の一つである。

①早朝見守り ②昼間見守り・スクールサポーター事業 ③夜間警備、それぞれが児童生徒の安全な登校保証、校内の安全管理、地域力の向上などで大きな成果を上げている。

課題も明確にされているので、その克服を通して、児童生徒の安心・安全などで更なる成果を上げて頂きたい。

【小中学校情報通信技術環境整備事業（学務課）】

情報通信技術活用教育を推進するための環境整備は、今や学校において必須の条件整備の一つとなっている。いち早く必要な情報を得ることは幼児、児童生徒の学習意欲を高めるだけでなく、情報通信技術そのものへの関心を高めることにもつながる。

「第3次浦添市情報教育推進計画」を推し進めている中にあって、時機を得た事業であり意義も大きい。

教育研究所との連携を通して、活用法等についての課題解決に期待したい。

【特別支援教育事業（学校教育課）】

特別支援教育ヘルパー派遣、認定就学者等巡回指導員派遣、市特別支援教育コーディネーター配置などによって、特別支援教育にかかる学校教育法改正に応えて着実な成果を上げつつある。

児童福祉・障害者福祉が本市行政施策の重要項目でもあり、課題を更に具体化し、その一つ一つを解決して特別支援教育が更に充実することを期待する。

【学力向上対策事業（学校教育課）】

学力向上対策は、沖縄県教育の最大の課題として長年にわたって県をあげた取り組みが続いている。

本市においても、県と歩調を合わせつつも独自の工夫と努力によって着実な成果を上げてきた。本年度も、全国学力・学習状況調査、県到達度調査、平均読書冊数における成果を明らかにしている。

学力を培う基礎となる基本的生活習慣の改善があり、各学校における「わかる授業」への積極的な取り組みがあり、そのことは市の行政施策を各学校が真摯に受け止め、家庭や地域を巻き込んだ取り組みがあったからである。

課題も明確にしているので、一つずつを克服して次年度の更なる成果に期待したい。

【外国語指導事業（学校教育課）】

グローバリゼイション、即ち、地球上のより多くの人々との交流が増えしていく社会の中にあって、国際共通語としての役割を持つ英語、その教育を学校の早い時期から推し進める意義は大きい。

本市が「英語教育特区」（総務省）の指定を受けて、小学校からの英語

教育を平成16年、以来、年々着実な成果を上げながら今日に至っている。平成20年度からは、文部科学省の認定で、教育課程の特例として、本市は引き続き小学校からの英語教育に力を入れてきた。

小学校での英語教育は、当然のごとく中学校の英語教育のあり方にも好影響を与え、中学校区単位の連携による取り組みが始まり、外国語助手の活用などを通した授業改善がなされ、「英語の授業は英語で」という先生方の意識も高まっている。

行政としては、A E Tの配置、英語指導コーディネーターの派遣、英語発表会の実施等によって、各学校を支援し、英語教育の充実を図ってきた。

その成果は、英語に対する関心や意識の高まり、リスニングテストにおける評価の高さ、県到達度調査での得点の高さ等で明らかである。

課題を克服しつつ、英語教育の一層の充実と成果に期待する。

【セカンドスクール事業（学校教育課）】

セカンドスクール事業は沖縄では本市だけのものであり、特色あるこの事業を誇りにしたい。

事業が始まったのが平成15年で、最初の2年はモデル事業として行われ、平成17年度から小学校の全校実施となり、年々着実な成果を上げながら今日に至っている。

自然体験、農業・漁業体験、野外キャンプ、民泊、冒険体験等を通して感動体験、仲間との信頼関係づくり、地域の人々との温かい交流を深めるなど、日常生活では味わえない有意義な体験をするという大きな成果を上げている。このことが、自然への畏れとありがたさを知り、働く人々への感謝、食物への感謝等を通して、将来への希望へのきっかけになると思われる。

課題を克服しながら、より充実した事業を目指して欲しい。

【教育相談事業（学校教育課）】

不登校問題は、本市の大きな教育課題の一つであるが、不登校生徒の復帰率において特に大きな成果を上げていることは喜ばしいことである。

復帰率は、平成21年度は前年度に比べて小学校、中学校ともに大きく改善し、県平均をも大きく上回っている。

課題も整理されている。一つ一つを着実に実行しながらよりよい成果を上げて頂きたい。

文科省は、平成23年度から「いじめ解決率」と都道府県別に公表の方針だという（平成22年12月21日 沖縄タイムス）。不登校問題ともかかわる「いじめの解決」に更なる工夫と努力が必要となる。

【小中学校水泳プール管理委託事業（学校教育課）】

安全管理、水質管理、衛生管理を任務とするプール管理員の業務は立派な成果をあげている。

プール管理員の配置は本市独自の事業のようだが、課題が前年と全く同じで、依然として改善されていないことが気になる。学校への周知などは徹底しているのだろうか。

【青少年センター運営事業】

青少年の健全育成は、本市施政の重要な施策でもあり、本事業の意義は大きい。

①教育相談事業、②巡回街頭指導、③環境浄化、④不登校等対策、の四つの柱で事業を進めてきた。

それぞれにおいて、成果も明確であり、スタッフの皆さんのが工夫を懲らしつつ真剣に業務を遂行してきたことが分かる。

課題も明確にしているので、諸団体や地域などとの連携を強化しつつ、青少年の自立のために更なる成果を上げて頂きたい。

【研修講座事業（教育研究所）】

本教育研究所は、開設以来多大な成果を上げてきた。長期研修を終了した多くの教職員が学校現場に戻って、研修成果を生かした授業改善等を取り組み、学校全体の課題解決力を高め、ひいては、研究所の他の事業とともに浦添市全体の教育力向上の役割を担ってきた。

平成21年度の事業は、①長期教員研修、②短期教員研修、③ICT出前講座、④第14回教育文化講演会の四つの柱を中心に行われてきたが、それぞれが時機を得た事業であり、スタッフの皆さんのが役割を自覚しつつ工夫を凝らした事業推進で成果も大である。

課題を克服しつつ更なる成果に期待したい。

【教育相談事業（教育研究所）】

①教育相談室の相談事業、②適応指導教室の活動、③「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の研究実施、の三つの活動を中心とした事業を推進し、それに大きな成果を上げている。

「平成21年度教育相談事業報告書」には、教育相談の形態別の受理・内容件数及び分析・考察、成果と課題等の他、適応教室「いまあじ」についての活動状況報告、成果と課題が詳細にまとめられている。特に、中学3年生全員が高校に進学できた成果を大きい。

巡回相談コーディネータによる関係機関との連携を深めながらの相談活動は不登校の改善に成果を上げ、教育相談支援員の配置による不登校の解消、教室復帰などの大きな成果を上げている。スタッフの皆さんのが工夫

と熱意・努力が伝わってくる。

課題を解決しつつ、更なる成果に期待したい。「こども青少年課」への事業の一本化による成果にも期待する。

【教育振興事業「小中学校コンピュータ等の整備関連事業」(教育研究所)】

①小学校コンピュータ整備事業、②中学校コンピュータ整備事業、③図書館用コンピュータ貸借、④教育用ソフトの貸借、その他 I C T 関連事業、の各項目について整備状況を簡明に示し、第 3 次浦添市情報教育推進計画を推進しながらの成果を明確にしている。

情報教育は本市教育施策の大きな柱の一つでもあり、第 3 次計画の総仕上げを目指し市の目標達成など課題を解決しつつ、より大きな成果が上がることを期待する。

【学校情報通信技術環境整備事業（教育研究所）】

①教育用コンピュータ及び周辺機器整備、②学校用コンピュータ整備、③高速インターネット接続機器の整備、④外部サーバー整備、の四つの項目について整備状況とその成果を明らかにしている。前期の事業とも関連して本事業の意義は大きい。

文科省指定研究校である仲西中学校の「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」の成果にも期待したい。

【学校給食調理場運営・管理等事業】

事業目的に対応して、衛生管理基準のクリア、円滑な民間委託への移行、更には蒸気回転釜の増設による問題解決、真空冷却機設置による成果を明らかにしている。

調理場のスタッフそれが、その職務の重大性を認識して懸命に工夫・努力していることが伺える。

課題の一つ一つをクリアして、給食調理場が更に整備され、その役割が充分に果たされることを期待する。

《指導部に対する総合所見》

指導部の各課、各機関ともそれぞれの事業に工夫を凝らして、鋭意取り組み着実な成果を上げている。以下、各課及び各機関に対して所見を述べる。

最後の（※）に、参考意見をまとめる。

(1) 学務課

就学支援、補助事業、学習環境整備などを中心にした事業を推進しているが、それぞれの事業を着実に推進して大きな成果を上げている。

学校教育の基盤整備、児童生徒の活動の向上、人材育成などに大きな

役割を果たしている。予算上の大きな課題をともなう事業もあるようだが、その一つ一つを解決しつつ諸事業の更なる成果に期待する。

(2) 学校教育課

特別支援教育をはじめ、7つの事業を推進してきた。

それぞれの事業に工夫を凝らした取り組みを進め、大きな成果を上げてきた。セカンドスクール事業や英語教育指導事業など本市教育の特色を鮮明にしている。諸事業をすすめるスタッフそれぞれの熱意と工夫のある取り組みを感じる。

それぞれの課題解決をとおして、更なる成果に期待する。

(3) 青少年センター

教育上の問題・悩みに対する相談活動、退学や不良行為に対する巡回指導、環境浄化活動、そして不登校対策等、教育上最も難しいとされる諸問題解決のため、スタッフ一同が鋭意努力して、大きな成果を上げている。

難しい課題が多いが、一つ一つを解決して子ども達の幸せにつなげて欲しい。

(4) 教育研究所

これまで、180余名が長期研修を終了し、各学校の教育力向上のための中心的な役割を担ってきた。そして、短期研修講座、出前講座、教育文化講演会等を通して、教育の質的向上を図りつつ本市教育の特色づくりに寄与するなど、多大な成果をあげてきた。

平成21年度の各事業とも成果は大きい。

本教育研究所の諸事業・活動が一層充実発展することを期待する。

(5) 学校給食調理場

学校給食法が改正され、平成21年4月1日から施行された。第1条の目的に続いて第2条の目標が定められているが、改正に伴って目標が7項目に増え、学校給食が教育の一環として実施されることになった。

その学校給食を提供していくのが学校給食調理場である。民間委託されても、学校給食の重大さに鑑みて、調理場の役割が充分に發揮されることを期待する。

(※) 各課、各機関の点検・評価のために、参考までに二つだけ提起しておきたい。

一つは、浦添市の独自の取り組みか、重点とする取り組みか等、事業の特徴点を明確にすることである。そのことによって、事業の推進にお

いて力の入れ方も変わり、点検・評価もしやすくなる。

二つは、一つ目と関連するが、事業について次の各項目を明確にすることである。

- ①具体的目標
- ②方法（工夫、努力点）
- ③成果と課題

以上

◎亀島靖氏より（教育委員の活動及び文化部に対して）

【教育委員の活動】

1. 教育委員会の会議

平成21年度、定例会23回、臨時会7回、計30回開催され、議案49件、選挙1件、協議3件、報告3件が取り上げられた。教育委員の構成は、行政の教育現場サイド、教育現場経験者、民間サイド、から構成され、厚生委員の現場体験、職場体験、また、人生体験から生じた豊富な知識、経験が意見の中に活かされている。

2. その他の会議、研修会への参加

①沖縄県市町村教育委員会連合会の定期総会、及び研修会、②沖縄県市町村教育委員会主催の研修会（県市町村教育委員会連合会主催）、③教育委員研修会（県教育庁主催）④那覇地区市町村教育委員会連合主催の会議等・等の各会議、研修会に参加することは、各市町村との教育行政の比較、また情報交流、また、懇親会等出席による委員間交流によって、各分野からの幅広い知識を、本市の教育行政に反映させることが出来る面からも継続が必要であると思われる。

3. 学校訪問

平成21年度の実施状況①学校訪問（小中学校全16校で実施）内容・道徳授業の参観、学習支援ボランティアなどの学校支援体制（現状と課題）についての意見交換。

②学力向上対策実践発表会・5中学校区の発表会へ参加。③指定研究発表会・特別支援教育（神森小学校）・英語教育（内間小学校）・道徳教育（港川小学校）・進路指導（浦添中学校）。

毎年、訪問テーマを決めて教育委員が、市内の全小中学校16校を直接訪問し、現場サイドとの直接対話、また児童生徒との交流を実施し最新の現場情報を収集できる面で

教育委員、また学校側双方にとって参考になる。その知識、情報が定例会等でフィードバックされることによって教育行政にも反映することが出来る。

4. 学校行事への参加

①入学・入園式、運動会、学芸会、卒業式等への参加することによって、児童生徒、保護者、地域活動者、教職員との交流が図られ情報の共

有が出来るとともに、激励することができる。

5. 各種行事、大会などへの参加

てだこ市民大学第一回入学式、夜間街頭指導、青少年を健やかに育てる浦添市民総決起大会、てだこまつり、少年の船結団式、泉州市訪問団結団式、市小中陸上競技大会、市子ども会まつり、消防出初め式、新年祝賀会、成人式、市婦人連合会との教育懇話会、まなびフェスタ、教育委員表彰式。

以上の行事に参加することによつて、各団体との交流、情報交換会、強力依頼などが可能で、また教育委員会の活動を知らしめ、認知度を高めるためにも必要である。

【文化振興事業（文化課）】

当年は、①「ジャズイン浦添」（平成21年8／1）②国立劇場おきなわ活用事業「新・古 伝統芸能浦添」（平成22年3／28）③第15回浦添市小中学生音楽祭（平成22年1／16）④子ども演劇ワークショップ「君とつなげる虹色」（平成21年11／22、23）⑤日露交換コンサート2009（平成21年10／3）の5事業の実施、浦添市文化協会、浦添市こども文化連盟への補助金助成事業、等が実施された。

5事業に関しては、浦添市文化振興事業実行委員会への補助金交付事業として展開されている。事業の選定に当たっては市民・行政・有識者によって構成されている「浦添市文化芸術振興事業協議会」の審査、意見を参考に実施委員会への補助金交付によって実施されている。

課題として考えられる各事業のマンネリ化を防ぐために、市民へのアンケート調査を通じて委員会での内容検討・実施方法の見直しも次年度に予定されているのは評価しても良い。また、各事業の実施結果の報告を受け、補助金の適正な実施を短・中・長期的に点検している点は良い。次の課題は、市民の各年齢層を対象とした幅広いイベント事業展開も視野にいれた選定が望ましい。

【てだこホール管理運営事業（文化課）】

指定管理者制度の導入による運営による結果をみると、稼働率21年度97.0%、利用件数325件と好調に推移しているのは評価される。また、委託費の持ち出しがないことも、指定管理制度の目的である行政側のコストダウンの目的に添う面で良い結果をもたらしている。指定管理者による自主事業の展開も、利用料の収入に繋がっている。これからの課題と

しては、施設利用者・主催者のモニタリングなどを通じて、サービスの向上、行政側のチェック体制の充実が望まれる。

【史跡浦添城跡・登録記念物保存修理事業（文化課）】

4期35年に渡る整備事業は、第1期事業が終了し、平成18年度から第2期事業が進められている。各期の史跡の調査成果によって、浦添ようどれ、高麗瓦、石畳道等についての新しい史跡の歴史観も生まれている。市民の期待する「世界遺産登録」に関してもユネスコの登録条件は厳しい面があると言われるが、可能性について推進してもらいたいとの市民の思いがあることを附記したい。

【浦添市内遺跡発掘調査事業（文化課）】

当市は、人口増加、企業の転入等の要因もありますます発展拡大していく可能性がある。と同時に、住宅、企業等の大規模開発も同時進行しつつある。しかし、市内にはまだまだ前田・経塚近世墓群」や、西海岸の石切場跡などの遺跡、史跡が存在している。貴重な史跡の調査、発掘には大型開発事業者の情報収集もさることながら、当市の都市開発企画や進行中の区画整理事業など役所内での横断的な調整業務も必要とされる。モノレール開発事業、西海岸湾岸道路計画など、その為の情報収集、分析の作業を進めることも大切であると思われる。

【うらおそい地域文化財保全整備事業（文化課）】

当市の総合計画事業の中に位置付けられている事業目的・「歴史がいきづく文化の薫り高いまちづくり」に添う事業として、平成21年に市指定史跡・市文化財「仲間樋川」整備が完了した。琉球王朝時代から字の象徴として利用された樋川の整備復元は、地域住民の誇りにつながるもので十分評価されて良い。また、「ようどれ館」、「尚寧の道」「うらおそい歴史ガイド」の事業展開、及び支援も限定された予算内で継続しているのも評価される。

課題としては、せっかく整備復元された史跡も市民に見学、体験してもらわないと価値がないので、できるだけ地元区とも協力し広報、啓蒙する必要がある。例として、てだこ市民大学などとの連携や、指導部との連携事業も考慮して良いと思われる。

【市立図書館運営事業】

前年度から実死している新コンピューターシステムが稼働し、図書管理

用のサービス向上に貢献している。今年度、新たに設立された「浦添市市制施行40周年記念・国民読書年事業」として位置付けられた「2010うらそえYA（ヤング・アダルト）文芸賞」は、画期的な企画と言える。短編小説部門、詩部門別の応募者も、文字通り市内の中学1年生から高校生、大学生にいたるまでの各年齢層、10数名におよんでいるのは企画の目的が達成されていると言える。審査員も、市内の文学者、詩人等で構成されているのも市内の人材の厚さを知ることが出来る。現在、継続されている浦添市移民編集刊行事業、また、幼年者を対象にした「おはなしコーナー」、青少年のための「読者講演会」等は、読書層を拡大する意味で評価される。

【美術館運営事業】

運営事業として、①教育普及活動②自主企画事業「王国時代の琉球展」・「バリ島影絵芝居の世界展」「うらそえ美術の軌跡展」③「市内小中学校美術作品展」④「沖縄の人間国宝展」⑤「近・現代日本漆の美展」⑥美術館管理事業⑦美術作品修復・復元事業等が実施された。

県内独自の琉球漆工芸品をコンセプトとしている当美術館は、国内でも希有の美術館としての特色を有している。また、当美術館は展示事業のみではなく、自主企画事業として市内の小中学生の美術作品の指導、発表の場を11年間にわたって継続して提供するなど人材能力開発にも寄与していると言える。沖縄の人間国宝展は、作品のみならず重要無形文化材保持者の人間紹介につながる独自の企画である。

次年度の「近・現代日本漆の美展」の実施のための調査事業は、漆工芸品専門の美術館としての当美術館の存在価値が全国的にも認知されつつあることで、全国から日本を代表する漆工芸品が調達展示できることは、県内の漆工芸作家や美術愛好家にとって刺激的な展示会となるものと思われる。このようなビッグイベントの展開は、プランから実施まで長期間（複数年度にまたがる場合もある）を要するために、市の単年度予算制度の中での実施が厳しい面があるが、万一調査費のみで終わった場合、対外的な交渉先に迷惑を及ぼす恐れもあるので、調査費以外に特別措置の必要性（例えば、民間スポンサー獲得等）も考慮することが考えられる。

これから課題は、美術館に所蔵されている美術品の質的価値を維持するためにも、継続的な修復、復元事業は必要とされる事業であるが、人材、予算確保の面で厳しい条件下にある。解決策としては民間のメセナ方式（協賛・協力による財源支援方式）を採用することも考えられる。

以上

お わ り に

地教行法の改正に伴い平成 20 年度から実施した教育委員会点検・評価については、初めての取り組みであったこと、加えて評価の指標、様式などその方法が国からは示されず、各教育委員会が独自に決定するとされたことにより、教育委員及び教育委員会職員とも試行錯誤の連続がありました。

幸いにして、最終的に完成した点検・報告書については、全般に大きな不備もなく、それ相応な点検・評価ができたものと考えております。

3回目となる今回の平成 22 年度（H21 年度対象）の点検・評価についても、基本的には前回とほぼ同じ手法、工程により実施をし、本報告書を完成させました。

今後も検証を重ねながら、又、市民の皆様及び市議会の皆様などからご指導、ご助言を賜れば、改善していきたいと考えているところであります。

結びに、大変お忙しい中で、「点検・評価に関する有識者」をお引き受けいただき、大所高所から、又は具体的な部分にわたって貴重なご意見を述べていただきました大濱勝彦様、亀島靖様、棚原正榮様に心から感謝を申し上げるとともに、これからも本市の教育行政の良きアドバイザーとして、お力添えをいただきますようよろしくお願いを申し上げます。

浦添市教育委員会